



能代東中学校
3年 岡本 美樹さん

終戦から81年 平和への誓い

能代市では「非核
平和都市宣言」を
しています



今年度の能代市戦没者追悼式・平和祈念式典で発表された能代東中学校3年の岡本美樹さんの「平和への誓い」の作文を掲載します。平和の尊さを次の世代へ伝えていくため、皆さんも平和について考えてみませんか。

問合せ 福祉課 Tel89-2152

「戦争は人を傷つける 体だけじゃない 心まで壊してしまおう」「平和は当たり前じゃない たくさんの人の涙と苦しみと『生きたい』という願いの上にある」これは、今年の六月、沖縄県で行われた「沖縄全戦没者追悼式」で朗読された、中学二年生亀谷琉奈さんが書いた詩の一節です。私はこの詩を読んだとき、強い衝撃を受けました。

私が戦争について知っていることは、学校の授業で学んだことだけでした。だからこそ、私は考えました。平和って、本当はどれほど大切なものなのだろう、と。毎日学校へ行けること。家族と一緒に温かいご飯を食べられること。友達と笑い合えること。好きなことに夢中になれること。私はそんな毎日が当たり前だと思っていました。しかし、その当たり前は、戦時中の多くの人が願っても手に入れないものでなかった未来でした。

私が、戦争について深く考えるきっかけになったのは、三年前に公開された映画『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』でした。主人公の百合は、一九四五年の六月にタイムスリップし、特攻隊の彰と出会います。特攻隊は、命がけで戦地に飛ぶという任務を背負っています。家族と過ごしたい。

友達と笑い合いたい。夢を叶えたい。今の私たちと変わらない願いをもっていた若者たち。特攻前夜に、家族や恋人に向けて書かれた遺書や、「誰かを守るために笑って死にたい」と願った青年たちの手紙を読むシーンを見たとき、戦争によって未来を奪われていく彼らの姿に、私は、とても胸が苦しくなりました。映画を見終わった後、「もし自分があの時代に生きていたら……」と何度も考えました。そして、こうして平和な毎日を過ごせていることは、決して当たり前ではないのだと気が付きました。

毎年、ここ能代市で戦没者追悼式が行われていることの意味を自分なりに考えてみました。この式典は、戦争で亡くなった方々を偲び、今の平和への感謝の気持ちを伝えるためだけのものではありません。戦争の悲惨さや、命の大切さを忘れず、二度と戦争を繰り返してはいけないということを、私たちの世代へ、そして未来へ伝えていくために続けられているのだと思います。戦争を経験した方々が少なくなっている今、実際の体験を聞く機会も減っています。だからこそ、この追悼式には、戦争の記憶を絶やさず、平和への願いを受け継いでいく大切な役割があります。

世界に目を向けると、今もなお戦争や紛争が続いています。特に、ウクライナや中東では、多くの人が安心して暮らせない日々を送り、私たちと同世代の子どもたちも、不安と恐怖の中で生活しています。

学校へ通うこと。友達と遊ぶこと。家族と一緒に笑って過ごすこと。そんな当たり前の日常が失われている現実があります。戦争は過去の出来事ではなく、今も私たちが向き合わなければならない深刻な問題なのです。私たちにできることは、一人では小さなことに過ぎないかもしれませんが、しかし、戦争について知ろうとすること。何よりも命を大切にすること。その積み重ねこそが平和な未来につながる一歩なのだと私は信じています。

私は戦争を体験していません。そんな私だからこそ、戦争をもっと知ろうと思います。学び続けようと思います。そして、平和な日常が当たり前ではないことを忘れず、家族や友達を大切にし、思いやりの心をもって生活していきます。

今日の日を、新たなスタート地点として、平和な未来を築いていくために努力していくことを、ここに誓います。